

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02521

研究課題名（和文）日欧芸術の相互影響関係における唯美主義の展開と波及 ビアズリーから三島へ

研究課題名（英文）Development and Expansion of Aestheticism in the Reciprocal Influences between Japanese and Western Arts: From Beardsley to Mishima

研究代表者

日高 真帆（Hidaka, Maho）

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：90407619

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、明治・大正・昭和時代の日欧芸術の相互影響関係において唯美主義が果たした役割と波及効果の諸側面を究明した。その結果、19世紀末から20世紀後半に至る幅広いスパンで西欧の唯美主義が日本の美術界・演劇界・文学界に横断的に与えた影響や、世紀末芸術と日欧の現代芸術との関連性における多様な受容の特徴が明らかになった。研究成果は海外での共著の出版・国際学会での招待発表、海外の大学での講演・事典や美術展図録の解説記事等を通して国内外で幅広く公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

唯美主義を切り口に研究することにより、日本と西欧の芸術や、美術・演劇・文学を始めとする異なる芸術分野が、相互にどのように関連し合って発展して来たのかを、具体的な作品例の分析を通して明らかにすることができた。その研究成果を、英語では共著・講演の形で国際的に公表し、日本語でも美術展の解説記事の執筆という形で公表することで、学界に留まらず広く社会に還元し、異なる時代・分野・文化圏の相互関連性を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This research has investigated aspects of the roles and influences of aestheticism in the interrelationship between Japanese and Western arts during the Meiji, Taisho and Showa eras. It has revealed the diverse characteristics of adaptation which can be seen in the extensive influences of Western aestheticism in Japanese art, theatre and literature over a long span of time from the fin de siecle to the late 20th century as well as in the correlation between fin de siecle arts and contemporary arts in Japan and in the West. The conclusions reached have been widely publicised, appearing in an edited volume published by an international publishing house, an invited talk at an international conference, lectures in universities overseas, and commentaries for an encyclopaedia and an illustrated catalogue of an exhibition.

研究分野：比較芸術、比較文化、舞台芸術、翻案研究

キーワード：比較芸術 比較文化 舞台芸術 受容 翻案 ビアズリー 三島由紀夫

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、主に過去9年間の比較文学研究の成果を踏まえたものである。具体的には、2008年度から2016年度まで科学研究費による3種類の研究課題に取り組んだ。若手研究(B)「日本におけるワイルド劇の受容に関する比較文学・比較文化的研究」(2008-2010年度)、基盤研究(C)「ワイルド受容の系譜—日本と英語圏諸国との比較研究—」(2011-2013年度)、若手研究(B)「明治・大正時代の日欧演劇交流再考—イギリス・アイルランド演劇の生成と伝播を中心に—」(2014-2016年度)である。その結果、日本と欧米諸国におけるワイルド受容の対照性や日本の演劇界の特異性、近代女優の活躍、明治・大正時代の演劇界における日欧の文化交流や影響関係の一端を明らかにした。これらの研究成果や研究活動から、新たな研究課題として、ピアズリーと三島を繋ぐ軌跡を辿ることで、文明開化以降の日本の文化的発展及び日欧文化の影響関係において唯美主義が果たした役割を検証すべきという着想を得たのであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日欧芸術の相互影響関係において唯美主義が果たした役割と波及効果を解明することである。その際、分野、国境、時代を越えた学際的研究を行い、世紀末芸術及びそれ以降の日欧の文学と視覚芸術、そして舞台芸術を関連づける。具体的には、オーブリー・ピアズリーと三島由紀夫を繋ぐ軌跡を糸口に、唯美主義の展開と現代への波及効果を読み解く。それにより、文明開化以降の日本の文化的発展及び日欧文化の影響関係において唯美主義が果たした役割と今日的意義を明らかにする。また、日本国内外において、日欧の文化人や芸術作品を通して実現した双方向的影響関係も明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は国際的視野に立つ学際的研究であるため、国内外で多面的に研究活動を行った。第一に、国内外の大学図書館において資料収集と調査研究を進めた。その際、世紀末前後の社会的、文化的背景に関する資料や、美術、舞台芸術、比較文学、比較文化関係の資料を幅広く収集した。第二に、関連作家・芸術家縁の資料館、美術館その他施設にて調査研究を進めた。第三に、最新の研究動向を把握して、随時研究課題の確認と調整を行った。また、国際学会への参加や海外の大学での講演等の海外研究出張を積極的に行い、国内外の研究者との交流や議論も活発に展開した。

4. 研究成果

本研究では、明治・大正・昭和時代の日欧芸術の相互影響関係において唯美主義が果たした役割と波及効果の諸側面を究明した。研究期間全体を通して関連する先行研究から画集・新聞・雑誌記事に至るまで関連資料を幅広く収集し、分析・考察を進めた。その結果、19世紀末から20世紀後半に至る幅広いスパンで西欧の唯美主義が日本の美術界・演劇界・文学界に横断的に与えた影響や、世紀末芸術と日欧の現代芸術との関連性における多様な受容の特徴が明らかになった。

研究成果は海外での共著の出版・国際学会での招待発表、海外の大学での講演・事典や美術展図録の解説記事等を通して国内外で幅広く公表した。具体例としては、英文共著 *Wilde's Other Worlds* (Michael Davis, Petra Dierkes-Thrun 編著, James Eli Adams, Julia Prewitt Brown, 日高真帆, Margaret D. Stetz, Claire Masurel-Murray 他 6 名著, 査読有, London/NY: Routledge) は世界各国でのワイルド受容の分析や最先端のワイルド研究を捉えた学術書である。担当箇所は、単著英語論文 “The Sexual Transfiguration of the Japanese Salomé, 1909-2009” (pp.245-267) であり、日本におけるワイルド受容の欧米とは異なる特異性や背景事情、美術や映画を含む翻案作品の分析について、ピアズリーの影響も含め国際的に発表することができた。赤い鳥事典編集委員会編『赤い鳥事典』(柏書房)では、赤い鳥事典編集委員会より執筆依頼を受けて「ワイルド、オスカー」の解説記事を担当し、日本におけるピアズリーの受容や挿絵を含めて論じた。『京都女子大学創基 100 周年記念 特別企画展観 京女 100 年の至宝』は同名の展覧会の図録であり、解説記事・コラムの執筆及び展示作品の選定の依頼を受けた。執筆担当箇所は、解説記事「9 “Birth from the Calf of the Leg” ふくらはぎからの誕生」(P12)、解説記事「10 Salome : A Tragedy in One Act サロメー一幕の悲劇」(P13)、コラム「京女のなかのピアズリー」(P14)であり、ピアズリーの作品分析のみならず、美術界・文学界への影響や日本における受容の多様性に関する論説を行った。このように、口頭での発表に加えて、学術書から事典・図録に至る幅広い出版物において研究成果を公表することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Maho Hidaka
2. 発表標題 Expansion of Oscar Wilde's Children's Fiction in Japan across Genres
3. 学会等名 IASIL Japan The 35th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Michael F. Davis, Petra Dierkes-Thrun, 日高真帆他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 308
3. 書名 Wilde's Other Worlds	

1. 著者名 赤い鳥事典編集委員会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 柏書房	5. 総ページ数 664
3. 書名 赤い鳥事典	

1. 著者名 中前正志編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都女子大学	5. 総ページ数 69
3. 書名 京都女子大学創基100周年記念 特別企画展観 京女100年の至宝	

〔産業財産権〕

〔その他〕

京都女子大学ホームページ
<http://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/Profiles/1/0000055/profile.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------